

# 足腰悪くても快適な旅



足が不自由でもハワイの海を満喫できる(ワ  
イキキビーチ) II エイチ・アイ・エス提供

車いすなどの高齢者が旅行する際の注意点は何か。旅行会社に申し込む時点では体の状況を正確に伝えること。断られるのではと過少申告する人がいるが、正確に伝えてこそ自分に合ったプランを紹介してもらえる。高齢になると体調を崩すリスクも高くなる。国内旅行でも旅行保険の活用を検討すべきだ。海外

## 旅行会社に相談 最適なプランを

旅行に持って行くと便利なグッズ	理由
車いすのパンク修理剤	近くに自転車屋がない場合に備えて
首から下げられるボールペン	筆談が必要な時にすぐ使えるように
ウェットティッシュ	車いすだと手が汚れやすいので
帽子	直射日光を避け体力の消耗を防ぐ
日焼け止め	体がほてり体調を崩す場合があるため
長袖のシャツ	体温調節をするため

(出所)日本旅行業協会の「バリアフリー旅行ハンドブック」を基に作成

## しっかり準備 楽しく安全に

NPO法人、東京バリアフリーツアーセンター(東京・江東)の齋藤修理事長は「障害者目線の情報を集める必要があり、事前に障害者支援団体に聞いた方がよい」と助言。同センター(☎03・36446・3544)のほか、各地の社会福祉協議会やボランティアセンターで相談先を紹介してもらってもできる。

篠塚恭一社長は「旅に出れば、外に出てもなんとかなるという自信が出る」と指摘。「それが普段の生活にも影響を及ぼし、日常生活が豊かになる」としている。(辻征弥)

なら滞在先の医療機関も調べておいた方がいい。ハワイなら日本語が通じる医療機関がある。

## 車いす移動や入浴サポート 国内外問わず充実

### SPIあ・える倶楽部のトラベルヘルパーの利用例

- 設定
- 都内在住。要支援の高齢者
  - トラベルヘルパーを利用し箱根に2日間の旅をした際の費用例

トラベルヘルパー基本料	2万1600円×2日 =4万3200円
宿泊代	1万5000円×2名 =3万円
旅費	4000円×2名 =8000円
介護旅行手配料	8200円
夜間の見守り費用など	1万400円
合計	9万9800円

専門家によると、家族水入らずで海外に足を運ぶにはハワイがおすすめ。同社は「家族旅行の9割はハワイ」と話す。ホテルや交通機関などのバリアフリー対応が

## 高齢者に選択肢広がる

「足腰が悪くても快適な旅を楽しみたい」。介護が必要な高齢者が増えるなか、国内・国外を問わずバリアフリーの旅行の選択肢が広がってきた。観光地なども受け入れ体制を整備し、旅行各社もツアーを用意する。介護者が同行してくれるサービスもある。

▼車いすで生活する男性 きらめていた  
(78)は入浴時に介助が必要だ。「広々とした風呂にゆっくりとつかりたい」。さざやかな夢を無理だとあ

宿)の「ドリームフェスティバル」はこんな願いをかなえる。9月28〜30日の日程で予定されるツアーでは、山梨県内のホテルの大半を貸し切る。のびのび温泉を楽しんでもらうのが狙いだ。

旅行には「トラベルサポート」が同行する。介護職員初任者研修(旧ホームヘルパー2級)以上の資格を持ち、大浴場での入浴を助けてくれる。旅行代金は5万4800〜9万9800円。

同社ユニバーサルデザイン旅行センターの淵山知弘支店長は「通常ツアーの半分の人数で開催している」と説明。時間に余裕があり、少人数の分目配りがきくが、料金は通常ツアーの1.5倍程度になる。

▼若いころ海外旅行が好きた女性(77)。もう一度行きたいが、車いすでの渡航は不安は大きい  
エイチ・アイ・エス(HIS)の「バリアフリー旅なかま」は国内外で年間60カ所程度のツアーを実施する。専任搭乗員が同行し、現地では車いすの貸し出しもある。行き先はハワイやスイス周遊、アフリカ南部のビクトリアの滝と幅広

進んでいるのが理由という。一方、欧州はバリアフリー対応が進んでいるが、歴史的な建造物を活用した宿泊施設の場合などは使い勝手が悪いこともある。風情を感じさせる街中の石畳も車いすの振動が大きく、注意が必要だ。

インドネシア・バリ島などアジアのリゾート地はホテルの対策は進むが、街中の店舗では入り口に段差があるなど、街全体の取り組みは遅れている。

▼東京都の要介護5の男性(86)は「故郷に帰りたい」と思った。親戚などと再会を果たした帰りの飛行機の中で思った。「北海道にめいっ子がいたな」